

（５）地域交流機能のコンセプトの検討

関連する区の計画や選定委員会における付帯意見、区民アンケート、意見交換会等を踏まえ新たな公共施設のコンセプトを検討しました。

【地域交流機能を考えるための視点】



【地域交流機能のキーワード】

- ①「集う・出会う」
- ②「学ぶ・働く」
- ③「遊ぶ」
- ④「つくる」
- ⑤「育む」
- ⑥「憩う」

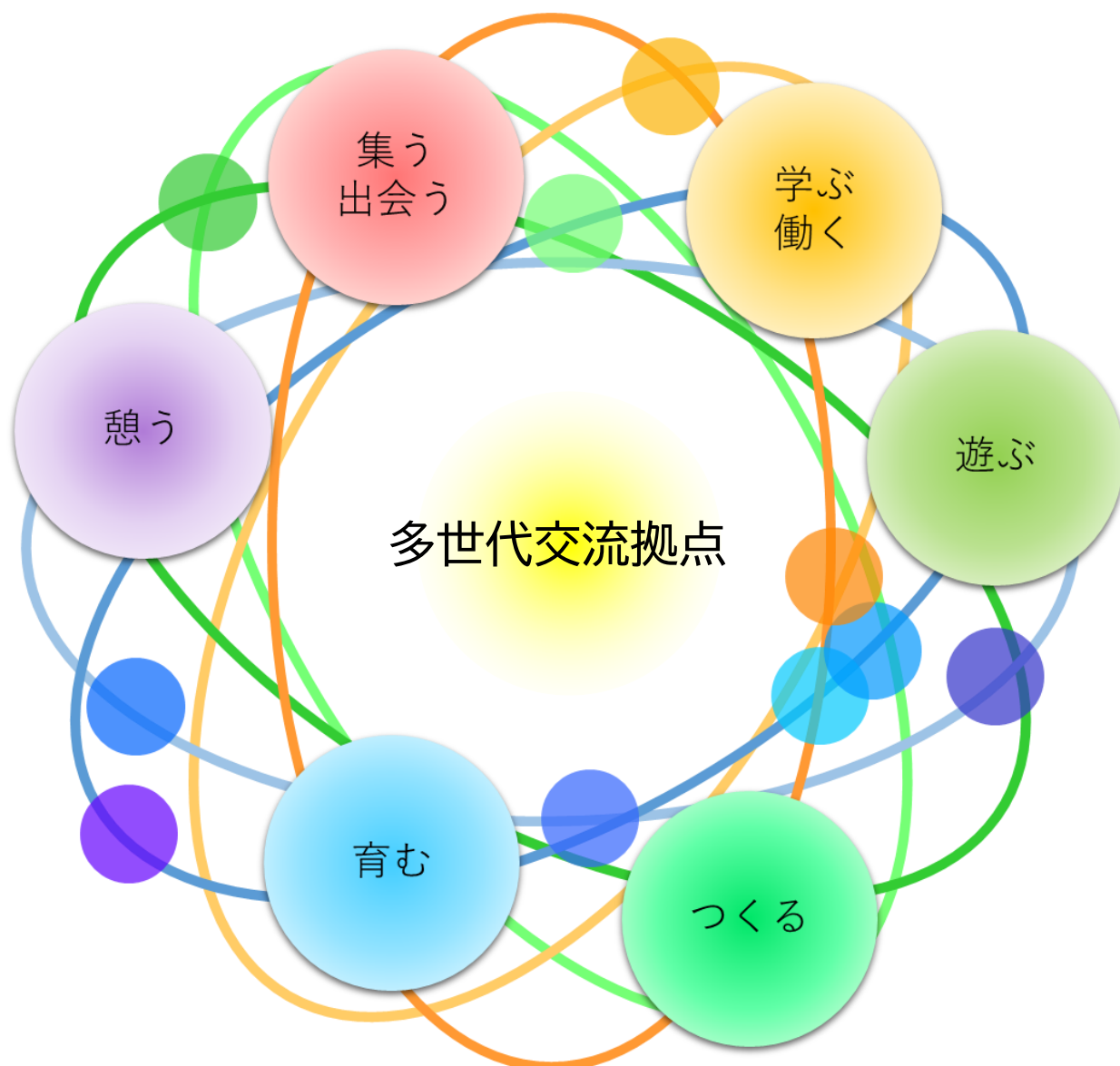
～ 交わり、つながり、賑わいを生み出す ～

新しいカタチの公共施設「多世代交流拠点」

「集う・出会う」、「学ぶ・働く」、「遊ぶ」、「つくる」、「育む」、「憩う」をキーワードに、これまでの公共施設の枠組みを超え、多様な機能を連携・融合させて、本区にはない「新しいカタチの公共施設」をつくります。

多様な人々が交わり、つながり、賑わいを生み出すための「多世代交流拠点」となる施設を整備し、子育て世代をはじめ全ての世代の方々が、住みたい、住み続けたいと思えるまちの形成を図ります。

そして、この施設で生み出された新たな賑わいと活力を、地域全体に波及させて、本区の更なる活性化へとつなげていきます。



(6) コンセプトに基づく導入機能

※各イラストはイメージであり、実際の設備等は今後の基本計画の中で検討していきます。



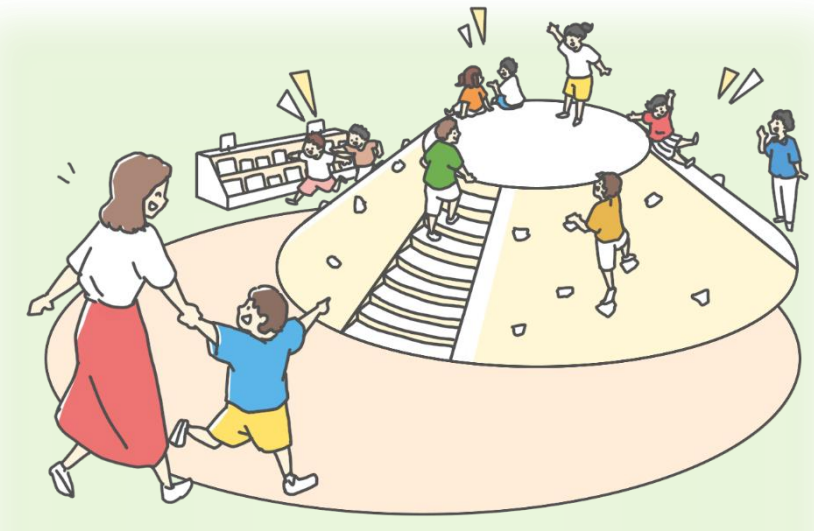
集う・出会う

多様な世代が自然に集い、出会える場と機能を備えた施設



学ぶ・働く

楽しみながら知識を深め、学ぶことができる施設



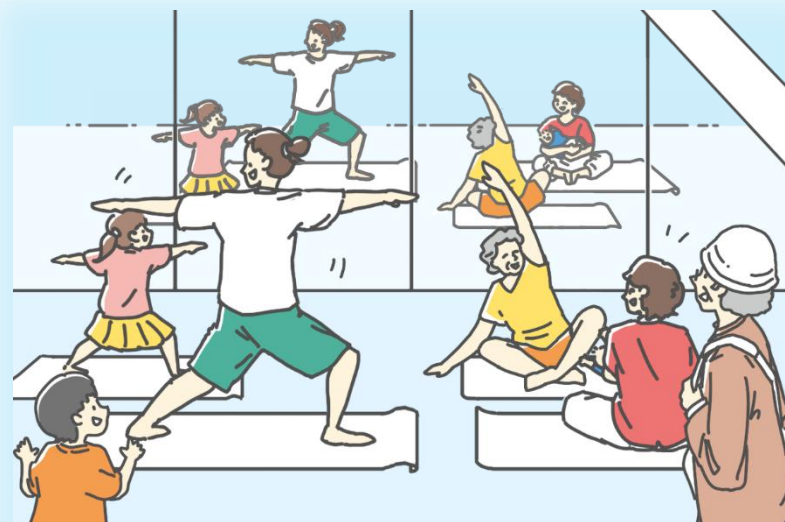
遊ぶ

安全・安心な環境のもとで、のびのびと遊ぶことができる施設



つくる

ものづくりや創作活動等、新たなモノやコトを生み出すことができる施設



育む

健康な心と体を育むことができる施設

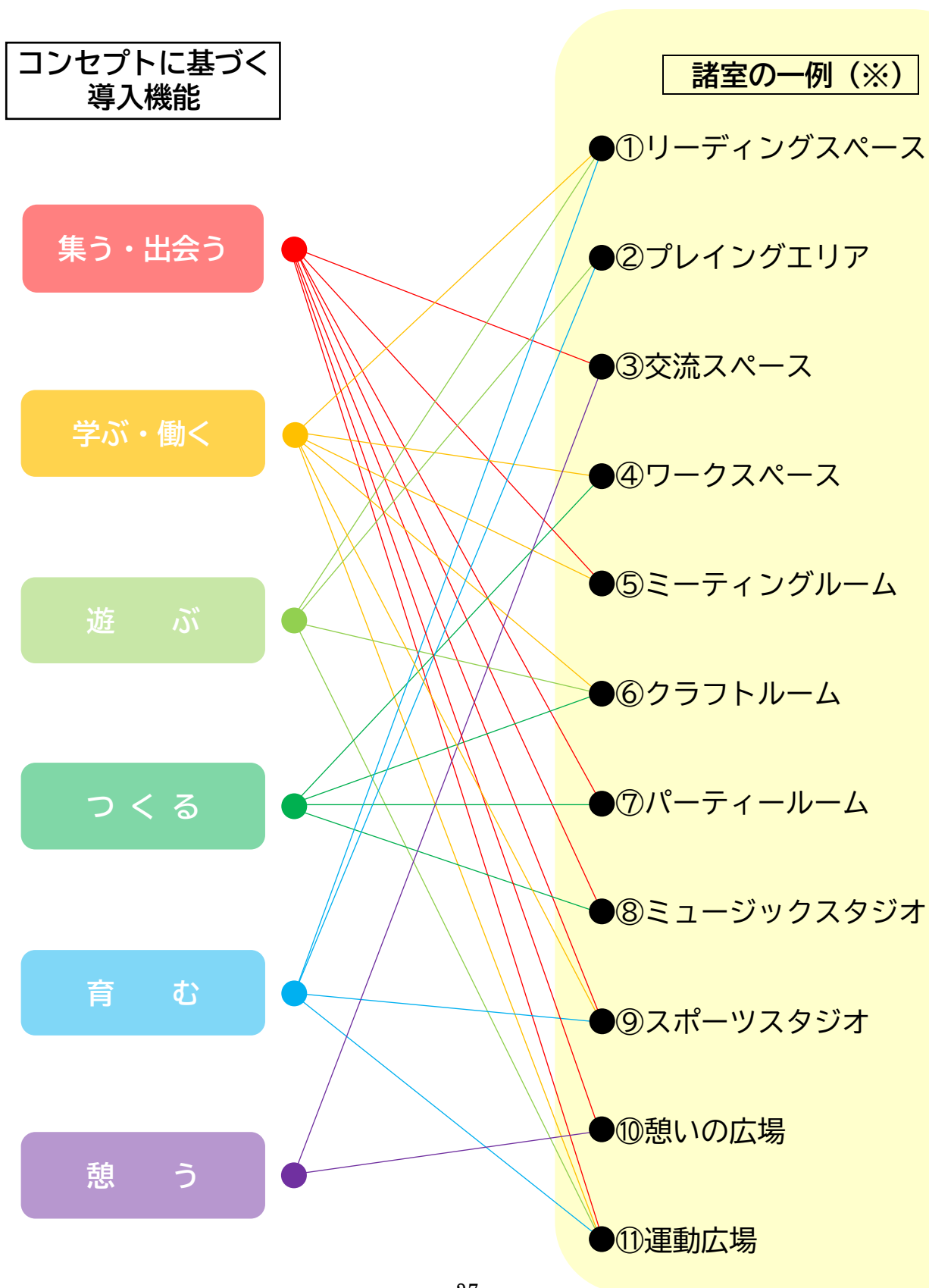


憩う

心地よく過ごせる明るく開放的な空間で、誰もが快適に憩うことができる施設

(7) コンセプトに基づく導入機能と諸室の一例

以下に、コンセプトに基づく導入機能と諸室の一例を示します。なお、導入機能に基づく諸室については、今後、基本計画を策定する中で更なる検討を進めていきます。



(※) 諸室の一例

諸室の一例は、他自治体の公共施設の写真を参考として掲載しています。
今後、具体的な用途や規模を基本計画の中で検討します。

①リーディングスペース

様々なジャンルの本との出会いを楽しめる空間。



千葉県旭市「おひさまテラス」



東京都北区「ジェイトエル」

②プレイングエリア

子供がのびのびと屋内で遊べる広々とした空間。



東京都足立区「ギャラクシティ」



千葉県旭市「おひさまテラス」

③交流スペース

飲食や休憩、会話等で使える空間。



東京都中央区

「晴海地域交流センター はるみらい」



神奈川県大和市「シリウス」

④ワークスペース

静かな環境で仕事や勉強等で使える空間。



東京都武蔵野市「武蔵野プレイス」



大阪府茨木市「おにクル」

⑤ミーティングルーム

地域活動や様々な教室で利用できる空間。



東京都武蔵野市「武蔵野プレイス」



大阪府茨木市「おにクル」

⑥クラフトルーム

ものづくりをするための様々な機器が設置された空間。



千葉県旭市「おひさまテラス」



東京都北区「ジェイトエル」

⑦パーティールーム

料理やパーティーで使え、飲食もできる空間。



千葉県旭市「おひさまテラス」



大阪府茨木市「おにクル」

⑧ミュージックスタジオ

防音で歌、楽器、バンド練習等ができる空間。



東京都中央区
「晴海地域交流センター はるみらい」

⑨スポーツスタジオ

フィットネスやダンス、ヨガ、卓球等のスポーツで活用できる空間。



東京都中央区
「晴海地域交流センター はるみらい」



大阪府茨木市「おにクル」

⑩憩いの広場

屋上に緑等を配した憩いの空間。



東京都中央区
「晴海地域交流センター はるみらい」



東京都北区「ジェイトエル」

⑪運動広場

バスケットボールやフットサル等、屋上で様々なスポーツができる空間。



東京都中央区
「晴海地域交流センター はるみらい」

(8) 施設整備に係る配慮事項

施設の整備にあたっては以下の点に配慮します。

ア 防災性・安全性

災害時にも区民の安全安心を確保できるよう、災害対策機能に配慮した施設とします。

イ ユニバーサルデザイン

年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず、すべての人々が安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた施設とします。

ウ 省エネルギー・環境

持続可能な社会の実現に貢献するため、自然エネルギーの活用や省エネ設備の導入、緑化等、環境に配慮した施設とします。

エ 景観

施設の外観は、周辺環境や景観に溶け込むような施設デザインを検討します。

オ 経済性

事業の持続可能性を確保するため、長期的な視点に立ち、ランニングコストにも留意の上、経済性を考慮した施設整備を行います。

カ 汎用性・可変性

多様な用途に利用できるよう汎用性を持たせます。また、将来の利用者ニーズの変化等に柔軟に対応できるよう留意します。

キ シームレスな空間

壁や仕切りを減らす等、利用者が様々な活動に触れる機会を創出するためのシームレスな空間づくりにより、区民の多様な交流を促進します。

ク デジタル技術の活用

デジタル技術を活用し、施設管理や運営を効果的・効率的に行います。

ケ SDGsの理念

「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえた施設整備を行います。

(9) 公共施設の整備・運営等に関する事業手法

公共施設の保有形態によらず、公共施設の内装は別途区の発注により整備する必要があります。また、公共施設の管理運営に関しても発注方法を別途検討する必要があります。

公共施設の整備に関し想定される事業手法には、従来方式^{※1}やDB方式^{※2}の他に、長期包括的な事業手法として、内装設計・内装工事と一体的に運営業務を発注するDBO方式^{※3}や、内装設計と一体的に運営業務を発注し内装工事は別途区の発注とするDO方式^{※4}も想定されます。

また、公共施設の管理運営に関する事業手法としては、区直営の他に、指定管理者制度の導入が想定されます。

新しいカタチの公共施設の実現に向けて、民間事業者の創意工夫・ノウハウを最大限に活かすという観点から総合的に比較検討を行い、最適な事業手法を検討していきます。

※1：民間事業者等に設計・施工、維持管理・運営を個別に発注し、資金調達は区で行う方式。

※2：Design-Build の略。設計(Design)、建設(Build)を一括して民間事業者に委ねる方式。

※3：Design-Build-Operate の略。設計(Design)、建設(Build)、運営(Operate)を一括して民間事業者に委ねる方式。

※4：Design-Operate の略。設計(Design)、運営(Operate)を一括して民間事業者に委ねる方式。